

氏名： 高崎 みどり (TAKASAKI Midori)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 文学修士 / Master of Arts
専門分野： 日本語 (現代語の文章・文体)
Japanese Linguistics (Discourse Analysis and Stylistics on Modern Japanese)
E-mail： takasaki.midori@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

日本語文章論 / 日本語会話分析 / 日本語の文章・文体 / ことばとジェンダー
Text analysis / Conversation analysis / Discourse and style / Japanese language and gender

◆主要業績

- ・『ここからはじまる文章・談話』ひつじ書房 (共著)
- ・「書評：馬場俊臣著『日本語の接続表現—指示・反復・省略』『日本語の研究』4-4 pp.95-102

◆研究内容 / Research Pursuits

平成 19・20・21 年度の科学研究費補助金交付 (研究代表者) を受けた研究「言語行動としての広義引用表現の研究」について、談話収録、データベースの構築を行い、データの分析を進めた。

また、いくつかの文学作品について、文章・談話分析の視点からの研究に着手した。

加えて、これまでの研究成果を授業に生かすべく、大学院用の教科書 (文章・談話研究) の編集作業を行った。2009 年 7 月にひつじ書房より刊行予定。

I made the sample collection of Japanese conversation to study the expression of variety of the quotations in the conversation under the support of Grant-in-Aid for Scientific Research for JFY 2007, 2008 and 2009 as the Principal Investigator. I analyzed the data.

I initiated to study literary works from the view point of text analysis and discourse analysis.

I edited a textbook on the study of Japanese discourse analysis.

◆教育内容 / Educational Pursuits

【学部教育】

日本語構造論概論、日本語構造論特殊研究、日本語構造論演習、基礎ゼミ、コア日本語論の授業を行った。また7名のゼミ生に対して卒業論文の指導を行った。

【大学院教育】

日本語表現分析論および演習を修士課程・博士課程の学生に対して行った（修士論文の指導が4名、博士論文の副査が4名）。また、指導中の留学生の出身国は4カ国（タイ・台湾・韓国・ロシア）におよび、日本語と母語との対照言語学的な研究を指導。なお、指導中の博士課程の学生1名は、財団法人博報児童教育振興会より、第2回「博報『ことばと文化・教育』研究助成」優秀賞を受けた。

【その他】

- ・ミネソタ大学 ポリーザトラウスキー氏を招き、談話分析について勉強会を開催。
- ・比較日本文学教育研究センター主催のコンソーシアム（12/15～17）日本語部会（12/15）を院生と協力して準備・運営。
- ・ロンドン大学 SOAS との共同ゼミに参加。（3/17～21）
- ・博士論文審査委員会副査2回、博士後期課程主指導4名、博士後期課程副指導6名

【Under graduate Course】

- ・ Introduction to studies in Japanese language
- ・ Introductory seminar
- ・ Seminar of Japanese text/discourse analysis
- ・ Lecture on Japanese idiolect and literary pragmatics

【Graduate Course】

- ・ Methodology of study of text/discourse analysis
- ・ Seminar of theory of text/discourse analysis

【Other Activities】

- ・ I organized a meeting on the latest study of the conversation analysis for graduate students by inviting Professor Polly Sztatrowski of the University of Minnesota.(1/26)
- ・ I set up the fifth consortium with graduate students under the support of Center for Comparative Japanese Studies.(12/15-17)
- ・ I participated in the joint seminar at the University of London SOAS.(3/16-20) I presented the study of "The Description of Otohime in Modern Literature" . And I also joined the discussion of Japanology.
- ・ I served as a member of two thesis evaluation committee.
- ・ I supervised ten graduate students, four as a main supervisor, six as a sub supervisor.

◆研究計画

【将来の研究計画・研究の展望】

科学研究費による研究「言語研究としての広義引用表現の研究」について分析を進める。実際の談話を収録し分析することで、引用形式に導かれなくとも談話の中で引用表現とみられる表現を体系的にとらえ、その多様性を示す。また、談話研究を行う大学生・大学院生向けに専門的な事項を取り上げ詳説したガイドブックを作成。2009年度に出版予定。

【共同研究の可能性】

メディア間のインターテクスチュアリティについて。たとえば、絵画・音楽・映画・文学等のテキスト間の相互参照性について考えてみたい。

◆メッセージ

日本語のなりたちや日常会話の談話分析的研究、文章・談話・文体に興味のある方は、是非受験をなさってください。